

【2年生】

	児童の現状の分析	授業改善の方針
国 語	○内容の大体をつかむことはできるが、事柄の順序や場面の様子に関わる叙述を見つけ出して読むことの定着について課題がある。 ○思考に関わる語彙が少なく、それらを用いて話や文章の中で使いながら気持ちを表現することに課題がある。 ○漢字の習熟の差が大きい。 ○一文を意識して文章を書くことの定着について個人差が大きい。また、句読点や括弧を正しく使うことの定着について課題がある。 ○読書量に個人差があり、読む内容に偏りがある。	○文章にサイドラインを引いたり色分けしたりして、事柄の順序や場面の様子にかかわる部分に注目しやすくする。また、文の基本構造等の関係を理解しやすくする。 ○読書活動に積極的に取り組ませる。また ICT 機器を使用したり動作化したりすることで、言葉と音、実際の様子などが繋がるように言葉の指導を行う。 ○似た意味の言葉を使って言い換えたり、書き換えたりする。 ○言葉集めや動作化、短文作りなど、語彙を増やす活動を取り入れる。 ○漢字の反復練習を行うとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことを意識させ、学習した漢字を使う習慣作りをする。 ○音読を継続して行い、一文のまとまりを意識させていく。また、日記や作文などの文を書く際に、句読点や括弧の書き方などを繰り返し指導する。 ○図書、ポプラタイムなどの読書の時間を使い、単元の関連読書などに計画的に取り組めるようにする。
算 数	○くり上がり、くり下がりのある筆算の定着が不十分である。特に引き算での間違いが多い。 ○時刻と時間、長さ、水のかさなどの数量感覚についての経験が乏しい。そのため、実際の場面を想像して学習に取り組むことができず、単位を覚えられない。 ○既習事項を活用して自分の考えを表現することの定着について課題がある。	○計算練習をくり返し行い、計算力の定着を図る。また、既習事項を根拠として、新しい知識を獲得させる。 ○時刻と時間、長さ、水のかさなどは、具体物の操作活動を意図的に行う。また、日常生活での積極的な活用を促す。 ○学びの状況に応じ、友だちと考えを共有する時間を確保したり、図や絵や言葉を使った考え方を提示したりすることで、自分の考えを正しく説明したり、よりよい考えを見いだしたりできるような活動を取り入れる。

生 活	○人や植物、生き物に意欲的にかかわろうとしている。 ○体験や観察の活動を通して、気付いたことや思ったことを表現することにおいて個人差が大きい。 ○自分の考えや思いを交流する活動について、意欲や思考、技能の面で個人差が見られる。	○自然や地域、人とふれあう学習活動を意図的、計画的に実施する。 ○視点をもって表現できるよう、国語「かんさつ名人」で学習したことを生かす。 ○自分の考えや思いを明確にさせるため、ノートやワークシートに書く時間を十分確保する。 ○話形や交流の視点を提示し、対話的交流を目指す。
音 楽	○曲調に合わせて体を動かしたり、拍を感じてリズム打ちをしたりして、音楽を楽しみながら取り組んでいる。 ○鍵盤ハーモニカの指使いの定着について課題がある。	○教科書教材や歌集などを活用して、いろいろな曲に親しみ、簡単な合奏などを積極的に取り入れていく。 ○副教材を活用し、指使いの指導と音階読みの指導に力を入れ、個別のサポートを充実していく。
図画工作	○意欲的に取り組んでいる。 ○はさみの使い方、のりの塗り方、絵の具の混ぜ方等、手先の使い方の定着について課題がある。 ○つくりたいものが思い浮かばず、取りかかるまでの時間について個人差が大きい。	○はさみ、のり、クレヨン、絵の具などの道具の使い方の指導を丁寧に行う。 ○展開の途中に互いの作品を見合う時間を設け、創作へのヒントを得られるようにする。
体 育	○意欲的に取り組んでいる。。 ○いろいろな体の動かし方の経験が少なく、技能の定着について個人差が大きい。 ○鉄棒や固定遊具などについて、運動経験に個人差が見られる。	○体育の学習を通して、いろいろな体の動かし方を十分に経験できるような場を設定する。 ○走る、跳ぶ、転がる、のぼる、おりる、ぶら下がる等の動きの基本となる運動に重点を置き、自分のめあてに合った運動を行うことができるようにする。 ○休み時間などを利用して、運動経験が少ない児童には、体の動かし方を指導したり、経験させたりするなど支援していく。
道 徳	○自分の意見を表現することや、道徳的な価値理解の個人差が大きい。	○友達の意見を聞いたり、考えを伝えたりする活動を設定するとともに、立場を変えられるように発問を工夫し、道徳的価値への理解を多角的に深めていく。 ○自分の生活を振り返る時間を取り、どうしていきたいかを毎時間考えさせる。